

琢磨台

No2 H30.7.6 文責：校長

1 県高校総合文化祭ポスター優秀賞受賞！

第41回岩手県高等学校総合文化祭のポスター選考において、**2年B組及川杏菜**さんの作品が見事に優秀賞を受賞しました。おめでとうございます！

また、本校は優秀作品の応募が多く「学校賞」も受賞しました。作品を出した皆さんありがとうございました。

2 様々ないただき物



先日、一関市長様から沢山の茶道具を頂戴しました。これは旧一関市2代目市長松川様のご息が市へ寄贈し、それを希望する学校にくださったのでした。

本校では高価な物を含む相当な数の道具をいただきました。

来る琢磨祭においてご披露し、使用させていただきます。

次に、同窓生から本をいただきました。

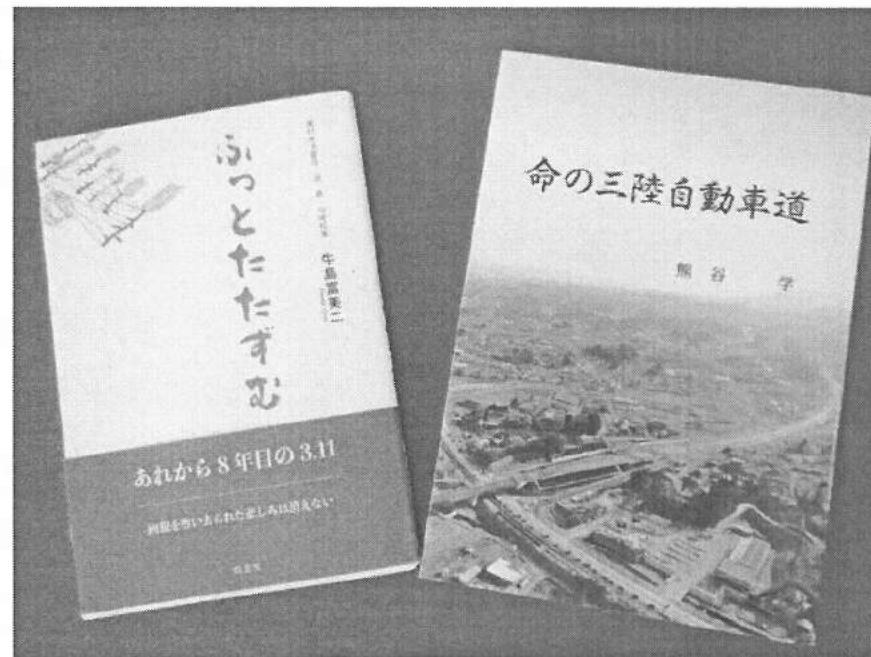
熊谷守様（気仙沼市在住）から『命の三陸自動車道』、牛島富美二様（本名後藤文二様、仙台市在住）から『ふっとたたずむ』をいただきました。

熊谷様は苦学し本校を卒業。気仙沼市にて会社を経営されております。その本の中の一部を裏面に載せました。どうしても本校に入りたかったという熱意を読み取ってください。

牛島様の本は、あの震災でお兄様と甥御様を亡くし、7年経っても疎くならない思いを詩と短歌と俳句に表したものです。

図書館に置きます。

先輩の思いを読み取りましょう。



佐々木さん(宮古1年)最優秀賞

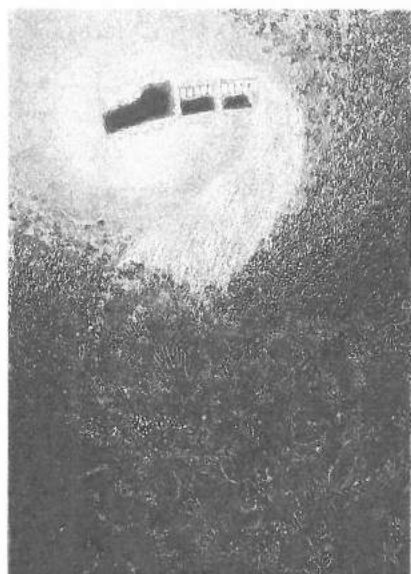
県高校総合文化祭ポスター



佐々木優衣さん

県高校文化連盟(会長・小田島正明盛岡四校長)は3日、盛岡市内で第41回県高校総合文化祭ポスター選考会を開き、最優秀賞に宮古1年佐々木優衣さんの作品を選んだ。

15校から95点の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞8点を選出。佐々木さんの作品はクレヨンを削り取って描く「ひっかき絵」で「色彩が美しく繊細な描写で見応えがある。明るい光の部分に目が導かれ、岩手の文化の発展を想起させる」との評価を得た。作品は県内の高校、公共



最優秀賞に選ばれた佐々木優衣さんの作品

施設に張り出す500枚のポスターに採用し、入賞作品は10月5日の同文化祭開会式(北上市文化交流センター)で展示する。

最優秀賞以外の入賞者、学校は次の通り(洋数字は学年)。

- ▽優秀賞 田老茜理(盛岡四3) 及川杏菜(大東2) ▽優良賞 千田朋佳(盛岡四3) 佐藤遙華(盛岡四2) 伊東佳音(盛岡四2) 安久都純香(盛岡四1) 瀬川ちせ(盛岡市立1) 小原永莉(黒沢尻北2) 高橋弥怜(一関二1) 足澤美香(福岡3) ▽学校賞 盛岡四 一関二 大東

夢を追いかけて高校・大学へ

中学時代はスポーツ万能でした。百メートル走は、いつも一等か二等でした。二百メートル走はいつも一等でした。同級生の千葉君がこのことを忘れず、還暦祝のときに「決勝の二メートル前で追い越されて勝てなかった」と言っていました。

野球部では選手になり、左ピッチャーだったので誰も打てなくて、みんなにびっくりされました。

ある日のこと、キャッチャーがいなかったので代わってくれないかと言われました。私は何でも出来たのでキャッチャーをしましたが、バッターの勢いよく振ったバットが私の頭を直撃して、その場に倒れて大騒ぎになりました。それに懲りてスポーツはやめて勉強をしようと思いました。

卵売りで買求めた本を読み、やっぱり人間は勉強しなければリンカーンや福澤諭吉のように偉くなれないと思ひ高校進学を考えました。当時は高校進学が十人に一人という時代でした。何より進学するためにはお金と学力が必要条件です。親に相談しましたが、父は兄弟が多く誰も高校に行っていないので駄目だと言いました。我が家は燃料関係の商売をしており、戦争前であれば繁盛していましたが、戦後、燃料が薪や木炭からガスや石油に変わり商売が不振になりました。

しかし、どうしても高校進学を諦めることが出来ませんでした。学費一ヶ月分五百円は借りて、残りは自分で働いて学費を稼ごうと思ひました。以前に鶏の卵売りをしたので、「にわとり」を育てて卵を産ませて卵販売の仕事をしようと思ひ、母に相談したところ、母は「ひな」二十羽を買ってきて協力してくれました。一年後に小さいながら養鶏場を作り、産卵した卵を販売出来るまでになりました。



摺沢高校

いよいよ高校入学が実現しました。当時は学区制があり奥玉からは千厩高校以外入学出来ませんでした。入学してみると毎日勉強の時間がなく農業実習だけでした。しかも農機具は旧式です。こんなことは自分の家が農家なので経験しています。自分は勉強したくて入学したのがっかりしました。夢を実現するためには千厩高校では駄目だと思ひました。夢を叶えるためには隣の摺沢高校に行くしかないのですが、学区の問題がありました。摺沢高校は二年前に男女共学になりました。何としても普通高校で勉強したいという思いが強くなり、断られるのを覚悟で摺沢高校の校長に転校

したい旨の手紙を書きました。私は千厩高校に入学しましたが、農家の三男で農業を勉強して卒業しても働くところがないこと、都会に出て行くためには普通科で勉強しなければならないこと、世のため人のためになる人間になるため大学進学もしなければならぬことなどを切々と校長に手紙で訴えました。するとすぐに返事があり、「二人の欠員が出たため二次試験があります。十人応募者がありますので受験してください」ということでした。さっそく受験して合格しました。



安斉兼蔵校長

入学して間もなく校長室に呼ばれ、校長先生は自分の若いときのお話をしてくださいました。校長先生は安斉兼蔵と言ひ、変わった経歴の持ち主でした。先生は小説家になる夢を持っていましたが、親たちは盛岡の岩手師範学校に進めたくて受験させました。入試の結

果、最高点を取りましたが、答案用紙に「合格しても入学しません」と書いたので学校で大問題になり不合格になり、先生は喜んで東京に夜逃げをしました。いざ東京駅に着くと右も左も分からず途方にくれ、帰りたくても帰りの汽車もなく、近くの旅館を探して泊まることにしました。

やっと見つけた旅館では、満室で断られました。物置でもいいから泊めてほしいと主人に頼み込みました。

そして、この旅館で信じられないことがありました。その日は特別のお客様が泊まっていた。なんと世紀の文学者トルストイでした。文学を志す安斉先



トルストイ

生は千載一遇のチャンスと思ひ、旅館の主人に自分の思いを話し、不可能と思いつつもトルストイ先生にぜひ会わせてくださいとお願ひしたところ、丁度トルストイ先生にお届けするものがあるので話してみること、特別に会わせてもら



摺沢高校時代

うことになりました。そこで自分には小説家になる夢があることや岩手師範学校受験のことを話すと、さすがに世紀の文学者トルストイです、安斉先生を見て変わった青年だと思つたのか、一通の手紙を書いて「これを学校に持って行きなさい」と手渡してくれました。翌日、岩手師範学校に持って行く学校では大騒ぎとなり入学を許可されたということでした。

こんなエピソードのある安斉先生は私の姿を見て、若かりし頃の自分を重ね特別目をかけてくださいました。父も学校に呼ばれ、校長先生に家の事情を話しました。息子は変わった子で勉強させてくれと言っているが、他の兄弟は誰も高校に入れなかった。自分で働きながら勉強するのであればということ許してくれました。

私も家庭の事情を知っていたので、養鶏で卵を売りながら学費を稼ぎました。校長先生のご好意と期待に応えられるように努力をしました。そして高校だけでは満足出来なくなり大学でもっと勉強したいと思ひました。